カリフォルニアビジネス

アメリカ好きから
専門家まで楽しく読める
カリフォルニアの教養

関根絵里
Elli Sekine



All About THE
CALIFORNIA BUSINESS

CROSSMEDIA PUBLISHING

はじめに　世界を席巻するイノベーションの発信源へようこそ

カリフォルニア州に移住して、早いもので30年になります。30歳を過ぎ、まだ英語さえ覚束なかった私が意を決して、単独で日本から旅立った日のことを、まるで昨日のことのように思い出します。たどり着いたのは、カリフォルニア州サンタバーバラ。スーツケースひとつで始まった私の第2の人生は、ここから動き出しました。

あれから30年――。今振り返ると、あの頃に漠然と描いていた夢や憧れは、いつの間にか現実になっていました。もちろん、一夜にしてかなったわけではありません。数えきれない失敗や挫折、そして人生を変える出会い。その一つひとつを積み重ねながら「なりたい私」へと歩いてきました。

日本の方からよく「なぜカリフォルニアを選んだのか？」「どうやって永住できたのか？」と聞かれることがあります。私はいつも、「ここが、私が私らしく生きられる場所だから」と答えます。さらに「その気になれば、誰でも移住できますよ」と付け加えると、「いやいや、普通はできないです」と返されることが多くあります。

果たしてそうでしょうか？私自身、特別な人間ではありません。移住した時は大卒の学歴もなく、人脈も資産も、文字通りゼロからのスタートでした。唯一持っていたものがあるとすれば、当時のパートナーからの精神的な支えと、「なんとかなる」という根拠のない自信だけ。夢を持つ人なら、誰でも目指す場所に到達できる環境がある。それが「カリフォルニア」なのです。

アメリカには毎年、日本から多くの留学生が訪れます。かつての私もその1人でした。私は現地の大学に入ってすぐ、大きな衝撃を受けると同時に、不思議な居心地のよさを感じました。そこには、日本の学校で感じていた堅苦しさが微塵もなかったからです。教室では、多様な国から来た肌の色も母国語も違う留学生たちが、同じテーブルで熱く議論を交わします。

私もその輪の中で、初めて日本を外から客観的に語る経験をしました。ちょうどその頃からグローバルな視点が目覚め始めました。それまで日本で絶対とされていた常識が、世界という広い視点から見るととてもちっぽけで、いかに自分がドメスティックな思考の殻に閉じこもっていたか。それを痛烈に意識させられた時期でした。

テストは日本と同じようにありましたが、そこで採点されるのはマルバツではなく、自分でリサーチして書き上げるペーパー（論文）です。テーマは次々と浮かぶのですが、ま

だ英語に自信がなく、アイデアをうまく文章にできずに悩んでいると、大学内にはすぐに誰かが手を差し伸べてくれるシステムがありました。どんな人種も差別なく、平等に教育を受ける権利がある。その環境に、アメリカの寛大さを感じたものです。

そして教授たちはこう言いました。「正解を書く必要はない。君がどう思うかを書きなさい」と。アメリカの教育は受け身ではなく、自ら問いを立てる能動的学習（アクティブ・ラーニング）です。私はこのスタイルにすっかり魅了され、ワクワクしながら自分の考えを表現し続けました。「ここは、自分が好きなこと、思ったことを自由に表現できる場所だ。」その確信は、のちに私が携わることになる雑誌編集の仕事や、多くの人やモノを取材する好奇心の原動力となりました。

このワクワクする感覚。実はこれこそがいまの私の仕事であり、この本の後半の章で触れる、遊びと仕事の境界線がないカリフォルニア流の働き方にもつながります。こう言うと、「それはただの道楽でしょう?」と思われる方がいるかもしれません。しかし、人間は好きなことには自然と5倍のエネルギーを注ぎ込むことができ、逆に退屈な仕事には驚くほど効率が上がらないのも事実です。**つまり、ワクワクに従うことは、生産性を最大化するための極めて合理的な生き方なのです。**

もちろん、好きだからといって、何もかもうまくいくわけではありません。私も数えき

れないほどの失敗をしてきました。大切なのは、失敗をする過程そのもの。それが成功を創り上げるための必須条件であることは、私個人の話にとどまらず、シリコンバレーというエリア全体が証明しています。

21世紀に入ってiPhone、テスラ、ChatGPTが生まれた最大の理由。**それは、シリコンバレーが「個」の情熱が何よりも尊重される場所だからです。**シリコンバレーでは、好きなことをとことん突き詰めるナード（オタク）であることは、むしろ武器として称賛されます。

成功を収めた人たちに共通するのは、失敗を恐れず、何度でも挑戦し続ける姿勢です。そして、自分らしくあること（Be Myself）が受け入れられる文化が、既存の常識を超えたアイデアを生み出す社会を創っているのだと実感しています。

私がサンフランシスコ・ベイエリアに移ったのは、ちょうどドットコムバブル全盛期の90年代後半でした。あのときの熱狂はいまでも忘れられません。取材の帰り道、サンノゼから自宅のあるサンブルーノまで、普段なら50分でたどりつく距離に2時間以上かかっていました。仕事は溢れ返り、世界中から優秀なエンジニアが押し寄せ、6車線のフリーウェイが埋め尽くされるほどのエネルギーが、街全体に満ち溢れていました。

そしていま、この街は再び、いや、当時とは全く異なる新しい時代の「熱狂」に包まれ

ています。街には、本格始動したテスラのＦＳＤ（フル・セルフ・ドライビング）や、アマゾン系、グーグル系のロボタクシー（自動運転タクシー）が当たり前のように走り回り、さらにはハンドルもペダルもない未来の車も登場しています。昨日までの非日常があっという間に日常へと変わり、次々とイノベーションが社会実装されていく。ここはまさに、私たちの未来を先取りする巨大なリビングラボ（生活実験室）そのものです。

また、ＡＩ開発の世界的拠点となったサンフランシスコには、いま世界中から優秀な技術者や起業を目指す若者たちが集まり、新たなスタートアップの創業に挑んでいます。街には、次の時代を担う挑戦者たちの躍動感が感じられます。

本書は、そんなカリフォルニア・シリコンバレーの「いま」を、現地に30年住み続ける私の視点から切り取ったものです。

大谷翔平選手が巻き起こす経済効果から、世界最先端のフードテック、そして私たちの働き方を変えるＡＩ革命まで。この街で起きていることは、数年後の世界のスタンダードになるはずです。

なぜ、カリフォルニアではワールドクラスのイノベーションが起き続けるのか？　そのワクワクする未来の答えを探す旅に、みなさんをお連れしたいと思います。

はじめに

第1章 Chapter 1 : The World of Innovation

シリコンバレーから学ぶ
世界を熱狂させるイノベーションの世界

1 パーカーとデニムがシリコンバレー流の正装？……018
2 新規開発を加速させるオープンイノベーションの流儀……021
3 スタンフォード大学 イノベーションと起業家精神の原点……025
4 「自社製品を殺せ」スティーブ・ジョブズのDNAとシリコンバレー流哲学……029
5 スタートアップと巨大企業を繋ぐ一攫千金ドリーム……032
6 新時代の産業革命 ビッグテックからビッグAIへ変わりゆく覇権……035

COLUMN 大企業で従順なエリートを捨て、
シリコンバレーの荒野へ飛び出したイノベーター……039

第2章 Chapter 2 : The World of Entertainment
ロサンゼルス流 創造と発信に学ぶエンターテインメントの世界

1 日米経済の架け橋 大谷翔平が動かす1300億円の経済効果……044
2 観戦ツアーから銀だこまで 球場でチャンスを掴む日系企業の勝ち筋……048
3 海を越えるマネーゲーム NHKが投じる約120億円の放映権の価値……052
4 任天堂とディズニーが生み出すIPマジック……055
5 テクノロジーをポップカルチャーとして消費させる街……058
6 ハリウッドに挑んだソニー・ピクチャーズ IPを資産へ変える世界戦略……061
7 非プラットフォーマー戦略とプレイステーションが生む新たなシナジー……063
8 ロサンゼルス流 究極の自己表現としてのウェルビーイング……065

COLUMN 夢を追いかける若きドラマーと音楽家族のロサンゼルス移住ストーリー……069

第3章 Chapter 3 : The World of California Cuisine

アリス・ウォータースに学ぶカリフォルニア料理とサステナブル経済の世界

1 世界でも稀有な食のエコシステム（生態系）のモデルシティ……074
2 伝説のレストラン「シェ・パニース」世界を変えたオーガニックブームの発祥地……076
3 世界にオンリーワンだからこそ、ブレない価値観と品質……079
4 店舗ではなく哲学を広げるサステナブル・ビジネス……082
5 循環型食ビジネスの真の雛形 農家との共生……085
6 未来を耕すおいしい校庭エディブル・スクールヤード……087

COLUMN 土から学ぶ命の教室 食育菜園ＪＡＰＡＮが描く未来……091

第4章 Chapter 4 : The World of Food
日本食グローバル化に学ぶ食の世界

1 「ブルーボトル」が仕掛けたコーヒーのブランド革命……096
2 カリフォルニア発 出汁文化の価値を切り開く挑戦者たち……100
3 世界的なおにぎりブームの震源地……107
4 アメリカで日本酒（SAKE）を日常の風景に変えたプレーヤーたち……111
5 世界を席巻する和牛（WAGYU）ブランド 誰が守るのか……116
6 空前の抹茶（MATCHA）ブーム 世界市場で問われる日本の価値……119

COLUMN 世界ブランドとなった「獺祭」はどのように米国市場をつかんだのか……123

第5章 Chapter 5 : The World of High-Value Branding
ワインの聖地ナパ・バレーに学ぶ高付加価値ブランディングの世界

1 ナパ・バレーが育んだワインと美食のエコシステム……128
2 ワインを文化に変えたパイオニア精神「ロバート・モンダヴィ」……131
3 世界最高峰の協業とブランド戦略「オーパスワン」……134
4 美食の聖地とD2Cトーマス・ケラーが築いた食の帝国……137
5 異業種からワールドクラスのワインを実現した「ケンゾーエステイト」の軌跡……140
6 ナパ・バレーという徹底した景観とブランドの保護……143

COLUMN 駐在員からワインメーカーへ。
ワインの聖地で夢を叶えた起業家の情熱「Noria Wines」……146

第6章 農業王国・カリフォルニアから学ぶフード&アグテックの世界

Chapter 6 : The World of Food & AgTech

1 気候変動時代に挑む、リジェネラティブ農業（環境再生型農業）……152
2 水資源の危機に直面するカリフォルニアの農場を救うアグリテック……154
3 カゴメがカリフォルニアで挑むアグリテック革命 種から食卓へ……156
4 フードテック投資の崩壊と次なる潮流 インポッシブルフーズ……160
5 培養肉の壁を超えて フードテックが辿り着いた新たな潮流……163
6 小さな食の起業家を支援するインキュベーター「キッチンタウン」……165

COLUMN 日本の伝統食をグローバル市場に導く
海藻ディープテック「Aqua Theon Inc.」……169

第7章 Chapter 7 : The World of Well-Being
カリフォルニア流 働き方に学ぶ ウェルビーイングの世界

1 優秀な人材を惹きつける職場リゾートの戦略的投資……174
2 シリコンバレーの社員食堂は、なぜ無料で超一流なのか……177
3 働き方をデザインする「アグレッシブ・プライオリタイゼーション」……179
4 テック業界特有のワクワク給与パッケージとジョブホッピング……181
5 一夜にしてマルチミリオネアを生むIPO劇とスタートアップのリアル……183
6 レイオフの天国と地獄 退職パッケージのマネーゲーム……186
7 究極のゴール ファットFIRE（早期リタイア）と年金システム……190

COLUMN GAFAM＋に勤める従業員のリアルなウェルビーイング……193

第8章 Chapter 8 : The World of Future Implementation

AIとモビリティに学ぶ2030年版・未来実装の世界

1 自動車産業の進化と未来予測 ロボタクシーとの共存か、喰われるか……198
2 モビリティ革命第1波 世界を塗り替えた破壊者「ウーバー」……202
3 街を支配するロボタクシー「ウェイモ」が切り拓いた完全無人化への道……205
4 自動車の常識を覆すハンドルもペダルもない「ズークス」が始動！……209
5 SF映画が現実になる未来 イーロン・マスクが仕掛ける次世代モビリティ革命……212
6 子供のお迎えも無人車？ 走るスマートフォンが溶け込む日常……216
7 自動的に迎えにくるレンタカー 駅前や空港から店舗が消える日……219

COLUMN ESGのその先へ「リビアン」が提唱するサステナ・モビリティとライフスタイル……221

第9章 多様性社会に学ぶ人材エコシステムの世界

Chapter 9 : The World of Talent

1 富と貧困が共存するカリフォルニアの移民と社会構造 …… 226
2 世界中の学生が憧れるカリフォルニアの大学と企業 …… 229
3 シリコンバレーに挑む若き日の丸起業家たち …… 233
4 不確実性の海へ飛び込め！
シリコンバレーと日本企業の架け橋 VALUENEX …… 242
5 日本の価値は、優秀な人材そのもの「所属」から「個人」へ
変わるグローバル人材の価値 …… 246

COLUMN 日本人学生に起業家精神を
B-Bridge International, Inc. CEO桝本博之氏 …… 252

おわりに …… 255
取材・制作協力 …… 260
読者特典 …… 262